TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

イエス・キリストの即位　弟子にしなさい

マタイによる福音書 28:16-20

2024年8月24日 & 25日
余沢 武　牧師

「さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスの指示された山に登った。そして、イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた。イエスは、近寄って来て言われた。『私は天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民を弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼（バプテスマ）を授け、あなたがたに命じたことをすべて守るように教えなさい。私は世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。』」

I. はじめに

こんにちは。今日でマタイの福音書の学びが終わります。
イエスが宣教活動を始めたとき、「神の国は近づいた」と宣言しました。
40日間の誘惑を通して、イエスは私たちに、この神の王国は私たちの名声や富への欲望を満たすためのものではないことをお教えになりました。この王国は、神に助けを乞うことによってのみ、義人となる人たちでできている王国です。
しかし、この王国は、パン生地に広がっていくパン種のように着実に広がります。この王国の王は、十字架にかけられること、そして復活をすることで即位しました。
私たちは今、イエスの十字架にかけられること、復活されたことを自分のことだと思うこと―十字架の上で罰せられたのは自分の罪のゆえであって、イエスの助けによって新しい命と人生があることを受け入れることによって―この王国に入ることができます。

今日は、これまで学んだすべてのことをどのように人生に適用できるかを見ていきます。

まず、祈りましょう。

II. 弟子にしなさい

(1)ひれ伏した

マタイによる福音書 28:16-17

「さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスの指示された山に登った。そして、イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた。」

先週、女性たちがついにイエスがメシア、神の御子であることを理解したことを見ました。そして、女性たちはイエスを礼拝しました。ここでは、弟子たちが同じ結論に達していることがわかります。そして、彼らもまたイエスを礼拝しました。
しかし、「疑う者もいた」とも書かれており、これは「躊躇する者もいた」と訳すこともできます。おそらく、イエスが神の御子であることを知ってから、イエスとどう接するべきかわからなかった人もいたのでしょう。

18節「イエスは、近寄って来て言われた。『私は天と地の一切の権能を授かっている。』」

イエスは地上での宣教活動中に、病気、悪霊、自然現象、天使、罪の赦し、さらには死に対する権威を持っていることを示しました。
しかし、今こそイエスは「天と地の一切の権威」を授けられているのです。それは新しい権能ではないかもしれません。しかし、これはこの方の権威が最高のレベルに達していることを示しているのです。

イエスを自動車の組立ラインの責任者に例えるとしましょう。復活の前には、彼は、いつでも、どの段階でも、どんな労働者にも指示する権限を持っていました。それはかなりの権威でした。しかし、今は最高位の権威を持っているのです。
どんな部品でもどんな形にも変えることができ、どんな車でもランボルギーニやフェラーリにさえ変えることができます。

イエスは今、地上でも天でも最高位の権威を持っています。彼は、宇宙のあらゆる要素を変えて、全く無力で罪深い人間をランボルギーニやフェラーリ、つまり神の完全な愛、純粋さ、そして人格を持つ神の子にする権限を持っています。

(2)大宣教命令

19-20節

「だから、あなたがたは行って、すべての民を弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼(バプテスマ)を授け、あなたがたに命じたことをすべて守るように教えなさい。私は世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

イエスはこうも言っているのです。
私はすべての権威をもっているから、何でも私が望むものに変えることができるから、ガラクタを取ってランボルギーニやフェラーリに変えることができるから、この権威をもって、あなたの新しい命、新しい人生を用いて同じことをしてほしい！

イエスの宣教命令の中に4つの動詞が含まれています。「行って」、「弟子にしなさい」、「洗礼を授け」、「教えなさい」です。ギリシャ語の文法では、主要な動詞は「弟子にしなさい」で、そのほかの3つは補助的な動詞です。

「行って」は想定されています。「弟子にしなさい」をするためには動き回る必要があります。この「行って」は国外にでることになるとは限りません。しかし、焦点は「弟子にしなさい」です。それはどこに行っても、です。
「弟子にしなさい」とは2つのことが必要です。一つ目は洗礼を授けること、二つ目は教えることです。イエスは、これこそが、神の臨在、神の王国にある新しい人生の新しいゴールだと言っています。

(3)弟子にすること

先週、神の臨在、神の王国に入るためには次のことをする必要があると学びました。

私たちが無力な罪人であり、死刑に値することをしてきたことを認めること。イエスが十字架で私たちの罪のために死なれたこと、「成し遂げた」と言ったことを受け入れること。
そうすれば、私たちは神の臨在に入ることができます。実際には、神の聖霊が私たちの内に入ります。
私たちは、神に助けを求め新しい人生を生きることができます。神に完全に頼り、神の御言葉に導かれ、神の助けですべてを行う新しい人生を生きることができます。そして、それを通して私たちは日に日にイエスの似姿になっていきます。

ここでイエスははっきりと宣言しています。それは新しい人生の新しいゴールは、私たちのような弟子をもっと生み出していくことであるべきだということです。それをすることによって、その人がどこへ行っても、周りの人々が自分も無力な罪人であることを認め、イエスが自分の罪のために死んだことを受け入れ、新しい人生を生きるため、神に完全に頼り、御言葉に導かれて、神と共に行なうよう神に助けをもとめる。そして、もっとイエスのようになるためなのです。

そして、「すべての民を弟子にしなさい」も私たちにも命じられています。どこから来た人でも、誰にでもするべきです。

ご存知のように、TBCは約50カ国の人々が参加する国際的な教会です。同じ国の人たちが出会い、励まし合うことができるいくつかの国別のフェローシップグループがあります。それはどれもよいことだと思います。そして、それよりももっと素晴らしい現象が起きています。
私が最後に参加したフィリピンフェローシップでは、フィリピン人ではない方々が10～15名いました。前回の韓国フェローシップでは、参加者の半分は韓国人ではなかったと聞きました。

すばらしいです！多くの人が国の垣根を越えて友達を作っているため、彼らは様々な国のフェローシップに参加することに抵抗を感じません。これは「すべての民を弟子にしなさい」の一環です。私たちは、国の違いに関係なく、お互いに手を差し伸べ、励まし合っています。

しかし、イエスは非常に具体的だったことに気付きます。焦点を失わないように、私たちのために2つのことを挙げました。

ゴール1は
「だから、あなたがたは行って、すべての民を弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼(バプテスマ)を授け、」です。
イエスによれば、弟子訓練は人を洗礼に導くことから始まります。なぜでしょうか。

洗礼自体には魔法のような救いの力はありません。何も変わりません。では、なぜ注目するのでしょうか。

それは、洗礼を受けるとき、私たちは「父と子と聖霊の名によって」洗礼を受けているからです。注意して欲しいことは、ここにある「名」は単数形でありながら、父と子と聖霊を指しています。
私たちが「父と子と聖霊の名」によって洗礼を受けるとき、私たちはこの唯一の神によって人生が支配されていると宣言しているのです。

私たちが洗礼水に入って出てくるとき、私たちは皆に、罪深い自分がイエスと共に死んで、新しくイエスと人生を歩んでいくことを告げるだけでなく、この新しい人生の中心が三位一体の神―父と子と聖霊―であることを伝えています。
私たちの新しい人生の全体の中心が神になり、神に従い、神の性質を身に着けて、御子によって赦された罪人として、そして聖霊の助けによって、成長して行きます。イエスは、このことを宣言するのは、弟子にするための 50%だと言います。

ゴール 2 は残りの 50%です。
「あなたがたに命じたことをすべて守るように教えなさい。私は世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」
私たちはイエスのすべての教えに従わないといけません。それはイエスの言葉、そしてイエスの使徒の教え―つまり新約聖書―のことです。また、新約聖書を通して理解する旧約聖書も含まれます。

私たちはそれが不可能と言うかもしれません。イエスは、怒ることは殺すこと、誰かを情欲をもって見ることは姦淫を犯すことであり、敵を愛しなさいとも言いました。 どう見ても私には絶対無理です！ だからこそ、イエスは「私は世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」と言って、私たちを助けてくれることも語っておられます。

気を付けてほしいのは、この戒めは「命じたことをすべて守るように教えなさい」とあって、「守れないときに裁くように」と書いてありません。

初めて学校で数学の授業に出席するとき、先生が自己紹介をしたり、数学の教科書をもらったりするかもしれません。しかし、「今夜、本を読んでください。明日は試験があります。」とは言わないでしょう。それでは私たちは全員失敗します。先生の意図は裁くことではなく、教えることです。

先生は最初に私たちに基本的な数式を教え、例を挙げ、簡単に解ける問題、そして徐々に難しい問題を出します。もし解けなかったら、先生はもう一度、どのように数式を使うか思い出させてくれるでしょう。

わたしたちもこのように他人を教えないといけません。無力な罪人であることを互いに思い出させないといけません。私たちは神に従うために、イエスの赦しと聖霊の力に頼る必要があります。
QT(デボーション)をするように勧めてください。助けを求めて祈るように励ましてください。

イエスは、みなが聖書の教師や牧師や宣教師にならなければいけないと言っているのではありません。人々がキリストを知って、キリストにあって成長するのを助けるために、私たちの人生を使うことが目標であるべきだと言っています。

(4)終わりに
イエスは**マタイによる福音書 13:33** でこう教えています。
「…天の国は、パン種に似ている。女がこれを取って三サトンの小麦粉に混ぜると、やがて全体が膨らむ。」

パン種や酵母のように、生地全体に広がり、パンを完全に変えます。私たちが次のことを示す方法で生きるなら、同じです。
自分が無力な罪人であることを知っています。イエスの十字架での死によってその罪は完全に赦されています。謙虚に、神に完全に頼り、神の御言葉に導かれ、神と共にすべてをする新しい人生を生きるための助けを求めます。

そうするうちに、何かが見えてきます。 私たちの性質は変わります。私たちは神を賛美するようになります。 周りの人たちは私たちに励まされ、学ぶでしょう。 私たちのほとんどにとっては、これが弟子訓練をする方法です。

これが私たちの教会に来て、人々と時間を過ごし、彼らの成長を助ける理由です。
なぜなら、周りの人々と時間を過ごすことなくしては、弟子を作ることもその成長を助けることも出来ないからです。 これこそが神からの召命なのです。

イエスの弟子として、これが私たちの人生のあるべき姿です。これがマタイの福音書の中心です。私たちは洗礼を受けることを通して、自分が何者であるかを宣言します。そして、私たちがキリストにあって成長するにつれて、他の人々にもキリストにあって成長するように励まし、教えるでしょう。
さて、私たちは他の人の成長を助けているでしょうか？ まだだというなら、今からでも遅くはありません。

イエスによって変えられ、私たちが神の召しに従順であるように祈りましょう。
福音の全ては私たちにこの備えをさせています。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 201

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg3524jp

★クラス 101
教会員になるためのクラス
9月8日（日）1:00pm – 5:00pm
参加条件: どなたでも

★クラス 201
霊的成長について
9月22日（日）1:00pm – 5:00pm
参加条件： クラス 101 を修了し、メンバーの方
https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu